厚生労働科学研究費補助金（地球規模課題解決推進のための行政施策に関する研究事業）
総括研究報告書

「保健関連の持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の促進を目標とした途上国における三大感染症対策の戦略提言のための研究

（H30 - 地球規模 - 一般 - 003）

研究代表者　蜂矢正彦　国立国際医療研究センター国際医療協力局運営企画部保健医療開発課長

研究要旨

グローバルファンド理事会や国際エイズ会議などの国際会議への参加や、ラオスおよびミャンマーにおける関係者への聞き取り調査を通じて、三大感染症（エイズ、結核、マラリア）対策における世界的な潮流、現状の課題、各ステークホルダーの動向や、グローバルファンドによって支援を受けた国家プログラムが抱えている課題について把握した。三大感染症対策に関する SDGs の保健関連目標を達成するためには、継続的な資金投入が必要であり、グローバルファンドの増資の成功、受益国自身による自国投資の増加が必要不可欠である。そのためには各種国際会議を通じて世界各国からの政治的なコミットメントを引き出していくことや、長期的かつバランスのとれた戦略で各国における Transition を進めていくことが必要である。日本は国際保健分野において主要なステークスホルダーであり、世界的な保健課題の解決に向けてその存在感を示すことが期待される。

研究分担者

蜂矢正彦：国立国際医療研究センター国際医療協力局運営企画部保健医療開発課長

日下英司：国立国際医療研究センター国際医療協力局長

駒田謙一：国立国際医療研究センター国際医療協力局運営企画部保健医療開発課医師

A. 研究目的

本研究では、開発途上国における保健関連の「持続可能な開発目標（SDGs）」達成を促進するため、三大感染症（エイズ、結核、マラリア）に焦点をあて、各国の自立的な目標達成のための戦略を援助機関との関連から分析し、グローバルファンド（GF）等の国際機関に対して、我が国が理事会等の場を通じ効果的に提言すべき内容について研究する。

具体的には、初年度は国際機関における三大感染症対策に関する戦略を分析するとともに、2018 年に予定されているグローバルファンド理事会や国際エイズ会議等の国際会議において我が国として発言すべき内容について検討を行い、厚生労働省や外務省に対して提言を行う。

B. 研究方法

研究班全体においては、GF 理事会や世界保健総会等の国際機関のガバナンス会合や、国際エイズ会議や世界結核肺疾患連合会議等の技術的な会合への参加などを通じ、三大感染症（エイズ、結核、マラリア）対策における世界的な潮流、現状の課題、各ステークホルダーの動向を把握する。得られた知見からすぐに我が国の国際保健政策に還元すべきものがあれば、直ちに厚生労働省や外務省に対して提言を行う。

特に日下分担班においては、被援助国の支援からの自立や案件形成過程の改革等について、GF 理事会関連資料や文献等を通じ、自立的な SDG 達成に向けて GF が進めようとしている戦略について分析を行う。また、理事会を含む各種会合に参加し、関係者の発言等を通じて各ステークホルダーの動向を把握する。これらをもとに、我が国が理事会等で提言すべき内容について検討を行い、厚生労働省や外務省にフィードバックする。

特に駒田分担班においては、GF をはじめとする関係国際機関の三大感染症の流行終焉に向けた具体的な戦略について、各種国際会議への参加等を通じて現在までの進捗と今後の課題を分析する。また、東南アジアやアフリカ等において、流行終焉に向けた戦略やドナーによる支援体制の変化が現場にどのような影響を与えているかを調査する。（調査対象国としては、国立国際医療研究センターが JICA プロジェクトへの専門家派遣等を通じて感染症対策に長年貢献してきたミャンマーやザンビアをまず想定）これらをもとに、我が国が GF 理事会や世界保健総会等で提言すべき内容について検討を行い、厚生労働省や外務省にフィードバックする。

C. 研究結果

研究班全体において、国際会議への参加などを通じて情報収集を行い、得られた知見をもとに国際機関や日本政府に対して情報提供・提言を行った。

日下分担班においては、第 22 回国際エイズ会議（2018 年 7 月、アムステルダム）に参加し、関連する情報を収集するともに、日下が、特別セッション“Going beyond business as usual and addressing complacency and fatigue in the AIDS response”に日本を代表して登壇し、日本の HIV 対策や患者への長期的な支援体制移行を発言した。また、第 5 回 GHSA 閣僚級会合（2018 年 11 月、バリ）にも日本を代表して参加し、これまでの日本の取り組みを紹介するとともに、次期枠組みである GHSA2024 においても引き続き AMR とラボ強化の分野で貢献してゆくと述べ、来年日本が主催する G20、TICAD VII、再来年の東京オリンピック・パラリンピックにおける抱負を述べた。さらに、日下は第 40 回 GF 理事会に日本理事区の理事代理として参加し、被援助国の支援からの独立プロセスや結核未診断患者に対する取り組みにおける技術評価委員会の活用など、いくつかの提言を行った。また、2019 年 2 月にインドで開催予定の GF 第 6 次増資準備会合にも、日本理事区の理事代理として参加し、各国の動向について情報収集を行い厚生労働省に共有した。

駒田分担班においては、GF の各種活動に関して外務省への情報提供を行いつつ、第 40 回 GF 理事会においては、資金配分方法、戦略的パフォーマンス、資金調達、被援助国の支援からの独立プロセスなどの議題に関して、日本理事区としての対処方針の第一案を作成し、外務省に提出した。また、同会合や 2018 年 10 月に開催された第 69 回 WHO 西太平洋地域委員会に参加し、関連する情報収集を行いつつ、外務省や厚労省からの出席者をサポートした。また、ミャンマーやラオスにおいては、両国における GF の案件形成に関わる関係者へのインタビューを行い、被援助国からの独立プロセスにおいて受益国側が抱えている課題（投資側の意向と受益側の能力・準備状況とのギャップ、投資側から見たアカウンタビリティの強化と、受益側のガバナンスやオーナーシップ強化の乖離など）について情報収集を行った。

詳細については、各分担班の報告書を参照されたい。

D. 考察

GF は三大感染症対策に関する世界の資金拠出のうち、HIV 資金の 8%（国際資金調達額全体の 20%）、結核資金の 10%（同 69%）、マラリア資金 40%（同 57%）をカバー（2017 年）していると

報告されており、その貢献は極めて大きい。WHO や UNAIDS などの国際機関がその専門性を活かして各国をリード・支援していくうえでも、GF との連携は欠かせないものになっている。一方で、その大きな貢献ゆえに GF への依存度も高く、一朝一夕に Transition を進めていくことは困難である。長期的な視点で各国のオーナーシップを高めていくことが必要であり、それには資金投入だけでなく、マーケット形成・調達などの技術面での支援も考えられる。

Transition を円滑に進めていくためには、まずは、三大感染症対策のみならず受益国の保健投資そのものを増加させることが最重要と考えられる。三大感染症対策への投資を強引に増やすあまり、他の保健予算が犠牲になるなどの弊害がないように配慮しなければならない。そのためには、各国において保健省と財務省との連携強化が必要不可欠であり、日本政府が 2019 年に予定している G20 保健・財務大臣合同会合は、政治的モメンタムを形成する格好の場と考えられる。

一方、Gavi や二国間援助などでも同様の Transition の動きがあり、協調が必要である。また、様々な国際機関・NGO においても三大感染症対策からの資金シフトが懸念されており、WHO や UNAIDS 等の国連機関もグローバルファンドとの連携を強化しており、受益国政府だけでなく、受益国で活動する機関・団体の GF 依存を強めてしまう可能性がある。特定のプログラム・機関のためだけの Transition を考えるのではなく、当該国の Public Financial Management を強化していくことが必要であり、そのためには二国間も含めた様々な支援情報の透明性を高めたうえで、連携・調整を行える仕組みが各国で必要である。

E. 結論

三大感染症対策に関する SDGs 達成に向けて、GF の果たす役割は大きく、日本は、その GF に対して単独理事区を保有する主要ドナー国として、影響力を行使できる立場にある。三大感染症対策をはじめとする SDGs 達成のためには、各国の意オーナーシップの強化、自国投資の増加が必要であり、そのためには長期的でバランスのとれた戦略、透明性のある支援やドナー連携が肝要である。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Sakamoto H, Lee S, Ishizuka A, Hinoshita E, Hori H, Ishibashi N, Komada K, Norizuki M, Katsuma Y, Akashi H, Shibuya K. Challenges and opportunities for eliminating tuberculosis - leveraging political momentum of the UN high-level meeting on tuberculosis. BMC Public Health. 2019 Jan 16;19(1):76. doi: 10.1186/s12889-019-6399-8.

2) 野崎威功真, 日下英司: グローバルファンド第 39 回理事会の報告. 国際保健医療; 34(2019); 45-47

2. 学会発表

1) E. Hinoshita: Going beyond business as usual and addressing complacency and fatigue in the AIDS response. 22nd International AIDS Conference, 2018 年 7 月 27 日, アムステルダム, オランダ

2) M. Chirwa , K. Komada , C. Msiska: Urgent need to integrate PMTCT service for HIV and Hepatitis B: an interim report from a prospective cohort study in rural districts, Zambia. 22nd International AIDS Conference, 2018 年 7 月 25 日, アムステルダム, オランダ

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. **特許取得**　　**該当なし**

   該当なし

2. **実用新案登録**